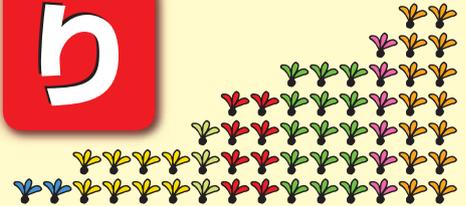


えびの市議会だより



平成24年3月定例会は3月6日開会

議会日誌

- 〔9月〕**
 - 2日 9月定例会開会
 - 5日 質疑(6日まで)
 - 7日 一般質問(9日まで)
 - 12日 委員会審査(13日まで)
 - 15日 基地対策調査特別委員会
 - 16日 9月定例会閉会
- 〔10月〕**
 - 3日 基地対策調査特別委員会中央要望(4日まで)
 - 6日 議会運営委員会
 - 7日 政策討論会幹事会
 - 11日 臨時議会(新委員会等の構成)
 - 12日 政策討論会
 - 15日 自衛隊基地創立記念事業
 - 18日 物産館建設について(市長へ政策提言)
 - 21日 市議会だより編集委員会
 - 24日 宮崎市議会議長会定期総会(25日まで)
 - 25日 森林・林業・林産業活性化議員連盟九州大会
 - 27日 九州市議会議長会第3回理事会(28日まで)
 - 28日 戦没者追悼式
- 〔11月〕**
 - 6日 関東えびの会定時総会
 - 7日 全国市議会議長会基地協議会九州部会総会
 - 9日 全員協議会
 - 11日 西諸地区森林組合併10周年記念事業
 - 14日 宮崎県議長会議員研修会
 - 15日 全国過疎地域自立促進連盟第42回総会(15日まで)
 - 21日 基地対策調査特別委員会
 - 24日 政策討論会幹事会
 - 25日 正副委員長会議
 - 30日 西諸県市郡議長会総会
 - 12月 議会運営委員会
 - 12月 定例会開会

平成23年度一般会計予算は 1,120万円を追加し

総額 110億3,425万円に

12月 定例会

国民健康保険特別会計補正予算 2,425万円を追加し…………… 総額37億3,217万円
 後期高齢者医療特別会計補正予算 117万円を追加し…………… 総額5億8,120万円
 介護保険特別会計補正予算保険事業勘定 3,470万円を増額し…総額27億7,865万円
 観光特別会計補正予算 59万円を減額し……………総額3,269万円
 病院事業会計補正予算 事業収益に702万円を追加し…………… 総額10億2,071万円

平成23年12月定例会は、11月30日から12月15日までの16日間開催されました。会期中に審議した案件は、議案等27件、請願・陳情2件、委員会提出議案（意見書）1件です。各議案等の審議結果は次項の審議結果表のとおりで、うち9月定例会で提案、閉会中に審査された決算の認定6件のうち、平成22年度一般会計歳入歳出決算の認定については不認定としました。また、追加で提案があった市長および副市長の給与を減額する条例改正案は可決しました。

● 一般会計予算の補正

歳出補正予算の主なものは、総務費の職員の勧奨退職による退職手当の増額505万3千5百円、東

日本大震災に関わる災害支援金の減額100万8千円。民生費では子ども手当制度改正による子ども手当の減額519万4千9百円。農林水産業費では口蹄疫対策基金を活用した畜産経営の支援補助金470万円、物産館運営に関わる体制の構築及び支配人候補者の雇用経費とする補助金79万4千円。商工費では観光特別会計の財源不足による繰入金89万3千4百円。消防費では新燃岳火山活動被害義援金を財源とした防災備品購入費237万円。教育費では島内地下式横穴墓群に関わる埋蔵文化財緊急調査事業308万2千円などです。

これら歳出に充てる歳入補正予算は、地方交付税の増額4億6140万2千円、国庫支出金の減額

586万9千4百円、財産収入の増額142万6千6百円、繰入金の減額4億314万3千4百円、市債359万5千円などです。

● 決算1件は不認定

平成22年度決算に関わる認定案件6件については、12月定例会初日に審査結果が報告され、うち平成22年度一般会計歳入歳出決算については先の競売入札妨害事件に関わる工事請負費を含む決算であることを理由に不認定とし、他の5件は認定しました。

● 国際交流センターなど3施設の指定管理者を指定

公の施設である国際交流センター、養護老人ホーム真幸園、ふれあい館の平成24年度からの指定管理者にそれぞれ、NPO法人宮崎iクラスター、社会福祉法人えびの

の明友会、社会福祉法人えびの市

社会福祉協議会を議決しました。

● 老人福祉デイサービスセンターの長期・独占的利用を市社会福祉協議会に認める条例を改正

● 特別会計予算の補正
今回、4特別会計合計で988万円減額し、総額は71億2471万円となります。

● 病院事業会計予算は事業費用で職員員の勧奨退職による手当を2533万円増額し、支出の事業費用総額は10億4469万円となります。

人権擁護委員候補者に

岡村 輝美さん
森永 時紀さん

固定資産評価審査委員に

馬越脇 泰二さん

情報公開・個人情報保護審査会委員に

徳澄 季喜さん
永田 萌子さん
河村 旭さん
馬籠 勝典さん

12月定例会における議案等の審議結果

1. 議案等

会期：11月30日～12月15日（16日間）

番 号	件 名	審議結果
報告第16号	専決処分した損害賠償の額の決定について	—
諮問第2号	人権擁護委員候補者の推薦について	別段異議はない
議案第58号	固定資産評価審査委員会の委員の選任について	同 意
議案第59号	えびの市情報公開・個人情報保護審査会の委員の選任について	同 意
議案第60号	西諸広域行政事務組合理約の一部変更について	原案可決
議案第61号	公の施設の指定管理者の指定について（国際交流センター）	原案可決
議案第62号	公の施設の指定管理者の指定について（養護老人ホーム真幸園）	原案可決
議案第63号	公の施設の指定管理者の指定について（ふれあい館）	原案可決
議案第64号	えびの市議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部改正について	原案可決
議案第65号	えびの市一般職の職員の給与に関する条例等の一部改正について	原案可決
議案第66号	えびの市企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部改正について	原案可決
議案第67号	えびの市災害弔慰金の支給等に関する条例の一部改正について	原案可決
議案第68号	えびの市老人デイサービスセンターの設置及び管理に関する条例の一部改正について	原案可決
議案第69号	平成23年度えびの市一般会計予算の補正（第8号）について	原案可決 （11：3）
議案第70号	平成23年度えびの市一般会計予算の補正（第9号）について	原案可決
議案第71号	平成23年度えびの市国民健康保険特別会計予算の補正（第3号）について	原案可決
議案第72号	平成23年度えびの市後期高齢者医療特別会計予算の補正（第2号）について	原案可決
議案第73号	平成23年度えびの市介護保険特別会計予算の補正（第3号）について	原案可決
議案第74号	平成23年度えびの市観光特別会計予算の補正（第3号）について	原案可決
議案第75号	平成23年度えびの市病院事業会計予算の補正（第2号）について	原案可決
議案第76号	えびの市特別職の職員で常勤のもの給与の特例に関する条例等の一部改正について	原案可決 （12：2）
認定第1号	平成22年度えびの市一般会計歳入歳出決算の認定について	不 認 定
認定第2号	平成22年度えびの市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定
認定第3号	平成22年度えびの市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定
認定第4号	平成22年度えびの市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定
認定第5号	平成22年度えびの市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定
認定第6号	平成22年度えびの市観光特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定

2. 請願・陳情

番 号	件 名	審議結果
請願第7号	郵政改革法案の早期成立を求める請願書	採 択
陳情第13号	えびの市発注工事に伴う地元工事業者の各専門工事分野毎に分離発注を求める陳情書	採 択

3. 委員会提出議案等

番 号	件 名	審議結果
委員会提出 意見書案第5号	郵政改革法案の早期成立を求める意見書（案）	原案可決

一般質問

12月定例議会の一般質問は、10人の議員が質問に立ちました。

今回は、口蹄疫後の出荷数激減に伴う支援対策や物産館建設に伴う運営体制の他、10月に発覚した不祥事への対応、再発防止に向けた対策など活発に議論されました。

畜産と物産館の対応を示せ

竹中 雪宏 議員

質問 昨年度は口蹄疫、本年度は東京電力の原発による風評被害で牛肉の買い控え、さらにはTPP参加交渉表明などにより、畜産



12月セリ市の状況

の状況は大変厳しい現状であるとしか言いようがない。特に牛牛は、口蹄疫の感染拡大防止策が取られたため、出荷頭数の増減が激しいことから価格変動は不透明と思われるので、早急に本市の独自支援対策を示せ。

市長 西諸の統一対策の上に本市独自対策として、素牛導入助成を付け加えた。

質問 枝肉価格は三年連続低迷が続き、本年度は最悪の年で正念場を向かえている。肥育農家の健全育成を図るために、マルキン事業の差額部分と素牛導入助成は最低でも必要と思う。また、養豚農家も依然と厳しい状況が続いているので同時に支援対策を示せ。

市長 現在、素牛導入助成や利子補給、マルキン掛金の一部助成を行っているので、この対策で推移を見守る。養豚は、オーエスキ1病予防接種補助と肉豚基金の一部助成で自分の間情勢を見守る。

質問 物産館建設は反対論があっても着手する考えであるのか。
市長 現時点では全力を投入する。

入札制度改革を

高牟禮 宏邦 議員

質問 競売入札妨害発生、議会解散、市長改選が実施され二年経過。市長は選挙公約で信頼回復に万全を期し、市政に取り組みと約束し当選された。今回の事件は一年目に発生している。この二年間での対応・信頼回復への取組みが万全ではなかったのではないかと、解散後の12月定例会の一般質問で、公共工事入札、契約適正化法に基づき質問し提言した。入札を監視する第三者組織の設置を求めたが、提言が実行されなかった。実現されていたら抑止力になっていたと思う。今後の対応、また職員へ意識改革への取り組みは。

市長 入札妨害、贈収賄事件が発生し、市民の信頼を失った事に深くお詫びする。指摘を受けていた入札を監視する第三者組織の新設を行い、強い決意で入札契約制度の改革と職員の意識改革に全力で取り組みます。

質問 物産館建設の条例制定と長短期計画への対応。運営協議会の権限機能、支配人への対応について

市長 条例素案の提示を行い、来年9月議会に提出する。指摘の案件について検討し、運営協議会で議論して方向性を出します。

平成24年度予算について

北園 一正 議員

質問 えびの市の平成23年度普通交付税は、前年度比4・1%減となり、9市で最低の38億3245万円となっている。これは、直近の農林センサスや国勢調査の結果、農家戸数が390戸減、人口が1463人の減となったことが、要因となっている。したがって、24年度予算は農業政策等重要な課題を抱えた編成となる。市長の方針を伺う。

市長 農家戸数の減、人口の減少は全国的な傾向であるが、新年度予算の中で対策に反映できる予算編成としたい。

質問 市の予算は、市民生活に影響する。
一、過疎対策等公共工事の予算。
二、厳しい雇用情勢の中で、雇用につながる事業の予算。
三、市内唯一の県立高校である飯野高校が、県立高校再編計画から

回避するため、魅力ある学校づくりに対する支援の予算は、どのようになるか。

市長 質問のあった、公共工事の予算、緊急雇用対策事業の予算、飯野高校支援事業の予算については、十分配慮した予算編成とした。



宮崎県えびの市
わかりやすい予算書

再発防止の徹底を

上原 康雄 議員

質問 市職員による贈収賄事件は市民に大きな不安と不信を抱かせた。事件の原因と市長の責任をどのように考えるか。

市長 最終的にはそれぞれの指揮監督が十分に徹底されていないからだった。市役所全体の問題ではあるが、特に私自身の指導の甘さもあった。責任を感じている。今

後は再発防止のために職員の意識改革など万全の対策取る。

質問 京町温泉の活性化を図るために、いくつかの事業の取り組みがなされている。スポーツ合宿の誘致をすることは観光客の増加につながり、京町の活性化につながると思う。えびの市の立地条件は非常に良い。これを活かさないといけない。スポーツ観光の推進について市長の見解は。

市長 合宿誘致の受け皿となる協議会設置を検討している。スポーツ観光は、私たちが思う以上に可能性があると感じるので積極的に取り組む。

観光商工課長 誘致活動はもとより、合宿する団体への補助、合宿期間中の差し入れなどの支援メニュー化を図る。

原発増設は反対 子どもを守れ

西原 政文 議員

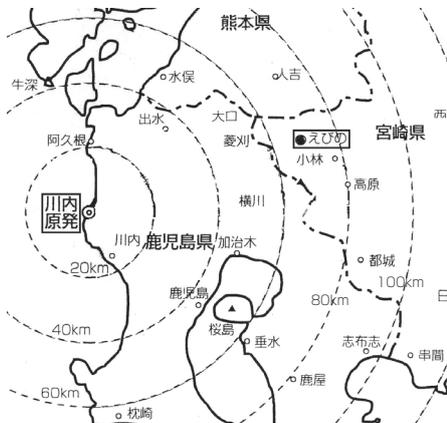
質問 震災と原発事故の教訓を生かした、市の防災対策の見直しが必要だと提案した。隣接自治体との協議や確認事項を示せ。

課長 西諸3市町で救急体制にあたる様協議をしている。災害時

の規模の大きい負傷者が出た場合、西諸医師会で応援態勢を作るようにする。

質問 えびの市はわずか60kmの所に川内原子力発電所がある。福島原発の事故では子供達の安全健康と農業被害が大きい。米は60kmで汚染が確認された。牛も福島全域で県外移動禁止が総理大臣名で12月に指示された。遠い所の話ではなく、川内原発は他人事では無い。原発は廃炉すべきだと考える。福島で23校が休校し避難をしている、子供達を被爆から守るうえで市長と教育長はどのように考えるか。

市長 アンケートにも答えたが、川内原発の新設は反対だ。現在有る物は、順次廃炉をすべきだと考える。



川内原発からの距離

教育長 福島で子供達1万1千918人が避難したが、子供達が被爆したのではと心配だ。子供を守る立場から自然エネルギーの利用による環境負荷の少ないエネルギーの方式が良いと考える。

集出荷体制は

西原 義文 議員

質問 市長の物産館に対する思いと将来どのような体制に持つて行くか。

市長 建設の一番の目的は、農家の所得の向上、観光商工業者の所得向上に結果的には導かれる形になると思うが、一番はえびの市民の方々や市外の方々に来ていただいてピーアールする。そして、6次産業化なり新たな生産物、加工品等を市内外の方々に買っていただいで市民が自信と誇りを持っていただくなどいろんな相乗効果がある。これまでの自然環境の観光だけでなく、えびの市民が作っていく魅力と言う所を表現する大きな場としたい。この事が一番の願いであります。

質問 執行部の示した計画はどう進捗しているか。計画どおりか。

畜産農林課長 ハード面については計画業者により関係機関、市民代表の戦略会議や各団体からなる幹事会メンバー代表の意見等を聞きながら基本設計に取り組んでいる。集出荷体制については、えびのっ娘の生産者と公募により集荷体制が今後確立して行くと考えている。建物は25年4月以降のオープンに向けて進めている。

物産館建設運営の原点は

池田 孝一 議員

質問 物産館の運営を市と民間団体4者が共同出資し立ち上げる第3セクターではなく、JAえびの市1者に任せる方針に転換した市民の期待や議会の提言を無にするものだ。市民にどう説明するのか。結果的にJAのための物産館になるとの見方も出てくる。

市長 第3セクターに参加し、出資割合に応じた責任を担うより、自分たちが主体的に担うほうが責任の所在が明確になるとのJAの強い意志表明があったからだ。「市民の物産館」の基本姿勢は変わらない。方針変更は、市民に伝え、そのような誤解は解いていく。

質問 では、運営を担う指定管理者の決定のための条例の改正はどうする。既成事実のまま議決を来年の9月まで放置するのか。

市長 すべての条件を全てそろえて提案するのが本来だが、指定は公募せずに選定できるように条例改正する考えでいる。

質問 公の施設である物産館の指定管理を現条例に違反したままで計画を進めるなど許されない。また、物産館の目的、役割と公共的運営を担保する「運営協議会」を条例に明記・制定すべきだ。

空き家対策の条例化を

外園 三千男 議員

質問 今、社会問題化しているのは放置されたままの空き家である。人が住まなくなつた家は年月がたてば柱、屋根等が腐り倒壊の危険が増し、強風が吹けば壊れた壁、屋根等が近隣に飛ぶ可能性がある。放火を含め火災発生懸念も不審者の出入り等犯罪の温床にもなりかねない、空き家調査はできないのか、また、条例等をつくって対応している区市町もある。対応する考えは。

市民課長 空き家等の環境管理の相談がある。所有者に連絡を申し対応してもらっているが所有者不明や相続人がいない場合もある。

市長 空き家調査が可能か検討する。条例設置は研究してみる。

質問 多種多様な災害に備え避難所へ避難されるケースが出て来る。避難所で女性特有のニーズを的確につかむためにも地域防災対策会議に女性の起用が必要と思う。

市長 女性の登用を図る。

質問 AED（自動体外式除細動器）の講習を一般、団体等で受講されている人たちが本年十一月末で819人となっている。市職員も講習を計画し受講する考えは。

総務課長 職員がAEDの講習ができるよう取り組む。



社会問題化している空き家（資料）

国際交流に支援を

宮崎 和宏 議員

質問 国際交流センターの運営管理の維持管理費は年間2000万円程度の予算を必要とするが事業内容はどのようなものか。

企画課長 指定事業としてサマーカーンプなど11事業、他に自主事業、各種研修など利用度は高い。

質問 えびの市国際交流協会があるが、事業活動について、市長はどのような感想を持っているか。

市長 留学生との各種交流、カンボジアへの派遣など、国際交流に活動されている団体とされている。

質問 協会は自主的に国際交流を行っている。活動経費については、会員の年会費、バザー売上、寄付など市民の協力を得て運営をしているが、経費面で限度がある。この事業活動にえびの市の協力支援をする考えはないか。

市長 活動には感心する。今のところどのような協力が必要か聞いていないので話ができれば検討する。

質問 市道上島内岡元線の改良工事はなかなか先が見えない。ど

のようになってきているのか。

建設課長 現在、岡元側を工事中です。上島内側は年度内に一部着工予定です。

農業機械施設設置を

栗下 政雄 議員

質問 VLF周辺の各地区でいろいろな農業施設等を整備したいという声があがっている。これは法人ですが、法人の方々の相談を受けている。こうした方々が直接関係機関の方にお願ひに行く話もあります。市民の方々が要望等に行かれる場合、あなたの名刺に裏書きをして、紹介していただけるものか。そうするとあとの仕事が非常にやりやすい。

市長 その陳情に行かれる組織がどういう組織で、どういった要望なのかということによると思うが、市長としてのバックアップということが役立つ、公平な意味で役立つということであれば、そうしたご協力もさせていただきたいと思っている。

連合審査で集中審議 支配人候補者の雇用など物産館関連予算

平成23年12月定例会では、議案第69号について、連合審査会を開催し、審査いたしました。その連合審査会について、開催に至るまでの経緯と審査会での審議内容をご報告いたします。

はじめに、連合審査とは、総務教育と産業厚生両常任委員会が共同して、ひとつの議案を審査することです。

今回の議案第69号の補正予算は、物産館組織体制構築のために、物産館運営協議会が、支配人候補者を雇用する経費等に対し、補助するものでした。

本議案は、物産館関連予算のみの計上でしたが、歳入を総務教育常任委員会に、歳出を産業厚生常任委員会に、それぞれ分割して付託されました。

しかしながら、歳入を付託された総務教育常任委員会の中で、今回の予算が、今後物産館建設を考える上で、特に重要な予算となることから、歳入の審査に当たって

は、歳入の内容を十分に踏まえる必要があると判断し、両委員会での協議した結果、連合審査会の開催に至りました。なお、連合審査会は審査機関であり、付託案件としての可否の判断は、各常任委員会で行いました。

連合審査会の審議においては、市長、副市長及び各担当課が出席し、議案の説明を受け質疑等を行いました。

説明の中では、物産館建設に伴う条例の考え方や各種手続きのスケジュール等が示され、指定管理者の指定手続きに関する条例改正を平成24年3月定例会に、物産館の設置及び管理に関する条例を平成24年9月定例会にそれぞれ提案する予定とのことでありました。

審議第69号の審査

- 歳入Ⅱ総務教育常任委員会
- 歳出Ⅱ産業厚生常任委員会

連合審査会

(総務教育常任委員会審査
産業厚生常任委員会審査)

各々の常任委員会採決

本会議に報告

本会議採決

平成22年度 決算審査報告

平成22年度の歳入歳出決算の認定が9月定例会に提案され12月定例会までの閉会中に、総務教育・産業厚生各常任委員会において一般会計・特別会計・企業会計の8会計の決算を審査したものです。審査の結果、一般会計の認定については、今回発生した競売入札妨害事件に関連する決算が2件含まれ、疑問点の残る決算であることから、対象事業の決算のある両委員会でも不認定とし、本会議でも全会一致で不認定と決しました。以下、決算の主な内容について会計ごとに報告します。

一般会計決算

平成22年度一般会計の決算額は歳入総額116億8324万1千円。歳出総額113億2030万5千円。歳入歳出差引額3億6293万6千円で23年度へ繰越した財源を差引いた実質収支額3億1582万2千の黒字決算となっています。

歳入の主なものは、地方交付税49億3941万1千円。市税18億6979万2千円（千円未満

省略、以下同じ）。国庫支出金17億1783万2千円。県支出金8億7831万7千円の順となっています。

歳出の内訳は、義務的経費52億8817万8千円。投資的経費13億9363万9千円。その他経費46億2949万8千円となっています。

審査の説明では、歳入で地方交付税3億1228万6千円増額（うち口蹄疫分1億4524万円）。

市税収納率は向上したものの前年度比、3467万6千円の減。市税の収入未済額は、1億9787万5千円あり、景気の悪化が影響しているとの説明がありました。不納欠損額は3653万2千円。

美化センターごみ焼却施設の、小林市の可燃ごみ受入で、焼却炉の耐久性について質疑があり、耐久性には影響がある。受入単価の検討が必要との説明がありました。

また、今回の競売入札妨害事件が発生した背景や、今後の対策についての質疑があり、執行部の説明では事件に対する徹底的な原因究明と、再発防止に取組むとのこ

とでありました。

特別会計

国民健康保険、後期高齢者医療、老人保健、介護保険（保険事業勘定、介護サービス事業勘定）及び、観光特別会計の5特別会計の歳入決算額は71億2304万7千円。歳出決算額は67億1180万5千円となっています。歳入歳出差引額の合計は4億1124万2千円となり、5会計とも黒字決算となっています。

市民生活に最も関係のある国民健康保険特別会計は、歳入決算額37億5767万9千円。歳出決算額34億886万5千円で、3億4481万4千円の黒字であります。繰入金（一般会計と基金積立）4億7907万8千円があり、厳しい運営となっています。また、多額の保険税の未納があるので収納対策職員2名を増員。収納対策に取り組み、滞納累計額が21年度と比較して1326万円減となったと報告がありました。

水道事業会計

平成22年度末の給水戸数8565戸、給水人口は1万9706人。計画給水内人口に対する普及率は

78・8%となり、前年度に比較して給水戸数、給水人口も減少しているとの報告がありました。

審査では、水道事業の給水収益は3億902万7千円となっており、利益剰余金が248万6千円となっています。水道料金の未収金は前年度比較すると、件数で132件、金額で119万円の減となっていることなどが説明されました。

病院事業会計

病院事業の事業収益は9億8048万6千円。事業費用が9億4940万7千円となっており、単年度3107万9千円の黒字決算となっているが、実質医療収益から医療費用を差し引くと、2455万円の医療損失金がある。

黒字決算となったのは、一般会計負担金、補助金等の医療外収益が8180万1千円あり病院事業会計は厳しい状況にあるとの報告がありました。審査では医療収益の減について質疑があり、医師1名の減、4名での平日午前中の診療体制が原因となっているとの説明でした。

産業厚生常任委員会報告

今期定例会で、当委員会に付託された案件は、議案10件・陳情1件です。審査結果については、議案10件は全て原案のとおり可決すべきものと決しましたが、内議案第69号については、反対討論があり挙手による採決となりました。また、陳情1件については、全会一致で採択すべきものと決しました。以下、審査の内容について、主なものを抜粋してご報告します。

①公の施設の指定管理者の指定について

養護老人ホーム真幸園を社会福祉法人えびの明友会に5年間、えびの市ふれあい館を社会福祉法人社会福祉協議会に3年間それぞれ指定者として指定するものです。

②物産館組織体制構築推進事業補助金について

この補助金は、物産館運営協議会の活動経費及び支配人候補者の雇用経費に対する補助金として、97万4千円を支出するものです。この案件は、今後の建設に向けた重要案件として連合審査会が実施され、その審査会を踏まえ当委員会でも審査を行いました。

Q…支配人候補者は、出荷体制まで指導できるような人材の確保ができるのか。

A…支配人候補者が総括していく形になるが、農産物に関する直接的な指導は別の形で整備する。

Q…公募の仕方は、どのような計画や方法を考えているのか。

A…12月中旬に公募をかけ、一月末に面接試験を行う予定である。また、公募の方法として、市内向けの周知も図るが、基本的にはホームページ上で公募をしていくことになる。

※ 討論では、市民の中で反対する声が多い。今の建設予定地は企業誘致等に活用すべきだ。今回の予算は物産館設置条例を設けた後に提出するべきである。建設について議論の余地を多く残している現段階では、時期尚早などの討論がありました。

③社会福祉協議会車両購入費補助金について

この補助金は、マイクロボス購入金額の一部、167万7千円を補助するものです。

Q…市民の方々が利用しており、市の役割を担ってもらっている。もう少し配慮が必要ではないか。

A…見積もりを精査し、同型の市所有のマイクロボスと同等な観点から算出したものを補助対象事業費とした。

④観光特別会計の補正について

新燃岳噴火活動の影響から、客数の減少に伴い歳入歳出59万8千円を減額するものです。

Q…新たな魅力の創出は、具体的にどのようなことを行うのか。

A…アバンドント白鳥の整備を行い、甌岳・池めぐり等三つの魅力を発信する準備をしている。

⑤陳情「えびの市発注工事に伴う地元業者の各専門工事分野ごとに分離発注を求めるもの」

審査の中では、議会もこれまで地元企業の育成ということは目指してきている等の意見が出ました。

産業厚生常任委員長 竹中 雪宏

総務教育常任委員会報告

本委員会に審査付託された議案7件はすべて原案のとおり可決すべきものと決し、請願1件は採択すべきものと決しました。

以下、委員会での審査内容を抜粋して報告します。

①国際交流センターの管理

特定非営利活動法人「宮崎イクラスター」に指定管理者制度で平成24年度～26年度まで3年間委託。

Q…センター内のレストランは、他の団体の運営となっている。指定管理者ではできないのか。

A…別途使用許可で運営している。管理者の運営は自主事業での業務でできる。

②市の特別職の職員で常勤のもの（市長等）の給与の特例に関する条例等の一部改正について。

今回の職員による競売入札妨害事件に関し、市長及び副市長の給与を3ヶ月間減額するものです。

事例があるのか。

A…全国で3市の事例がある。市長、副市長の責任を明らかにするための減給処分である。

③一般会計予算の補正（第9号）

歳入歳出それぞれ1022万8千円を追加するものです。

本委員会が審査した主な予算は財産収入・不動産売却収入のうち626万5千円は、旧飯野駅前文化会館跡地の一部を、駅前区公民館敷地として売却するものです。

教育費・埋蔵文化財緊急調査事業費308万2千円は、島内地下式横穴群に10体出土した、1400年～1500年前の人骨分析調査及び古墳群の出土品約1000点を重要文化財指定に向けての調査・記録費の予算であります。市の貴重な文化財保存の経費となります。

④請願第7号「郵政改革法案の早期成立を求める請願書」について

採択 審査の結果、郵政民営化法の現行法では郵便外務員に貯金・保険の取扱を依頼できない。郵便局へ郵便の問合せができない等不都合が生じている。また、過疎地域では貯金・保険事業を採算性の重視により提供を受けられない事態が予測されるので、市民の利便性を確保するため採択したものです。

総務教育常任委員長 北園 一正

可決した意見書

郵政改革法案の早期成立を求める意見書

これまで郵便局は、地域社会において「情報」「安心」「交流」の拠点としての役割を担っており、地域住民の利便性の増進等に大きく貢献していた。

しかし平成19年10月、郵政民営化法に基づき郵便・貯金・保険の郵政三事業は民営・分社化され、郵便外務員に貯金・保険の取扱いを依頼できない、郵便局へ郵便の問い合わせができない、各種手数料が上がった等「利便性向上」を謳う法の趣旨に逆行する様々なサービスダウンが生じ、地域住民から不満の声が多く寄せられている。

また、現行法には、郵便事業は全国一律のサービスを維持することが明記されているが、将来的に貯金・保険を提供できない郵便局があらわれ、公益性・地域性が失われる恐れがある。

これらの不満・不安を解消するため、昨年4月郵政改革法案が閣議決定され通常国会に提出されたが、以降秋の臨時国会、先の通常国会と未だ成立していない状態が続いている。

この間、郵便事業における経営不安も報道されたところである。

全国2万4千郵便局ネットワークは国民共有の財産であり、生活に必要不可欠なライフラインでもある。

これを今後も維持し、更に地域社会が有効活用していくためにも、一刻も早く郵政改革法案を成立するよう、強く要請する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成23年12月15日

宮崎県えびの市議会

新議会構成

10月の臨時議会で、市議会の新たな役職構成が決まりました。任期は、平成23年10月11日～25年9月25日までとなります。

新議長のもとに、全ての委員会メンバーや議会選出委員等も改まりました。

議長・・・藏園晴美

副議長・・・本石長永

総務教育常任委員会

- 委員長 北園一正
- 副委員長 上原康雄
- 委員 池田孝一・井川原志 庫男・溝辺一男・外園三千男・栗下政雄

藏園晴美

- ※総務課 企画課 財政課 財産管理課 税務課 会計課 議会事務局 選挙管理委員会 監査委員会 公平委員会 水道課
- 市立病院および教育委員会の所管に属する事項

※他の委員会に属しない事項

産業厚生常任委員会

- 委員長 竹中雪宏
- 副委員長 松窪ミツエ
- 委員 西原義文・西原政文 高牟禮宏邦・宮崎和宏・本石長永

※市民課 健康保険課 長寿介護課 環境業務課 福祉事務所 観光商工課 畜産農林課 建設課および農業委員会の所管に属する事項

議会運営委員会

- 委員長 上原康雄
- 副委員長 池田孝一
- 委員 西原政文・井川原志 庫男・高牟禮宏邦・外園三千男

※議会の運営に関すること。議会の会議規則 委員会条例に関する事項 議長の諮問に関する事項等を取り扱います。

基地対策調査特別委員会

- 委員長 溝辺一男
- 副委員長 栗下政雄
- 委員 上原康雄・本石長永 西原義文・高牟禮宏邦・宮崎和宏

※駐屯地存続 基地周辺対策事業 防衛事業調査研究のために設置されました。

その他、各種委員などの選任は以下の通り決りました。

宮崎県後期高齢者医療広域連合議会

- 議員 竹中雪宏

西諸広域行政事務組合議会

- 議員 池田孝一
- 議員 溝辺一男
- 議員 宮崎和宏

議会選出監査委員

- 委員 高牟禮宏邦

民生委員推薦会

- 委員 西原政文

都市計画審議会

- 委員 西原政文
- 委員 栗下政雄
- 委員 藏園晴美

青少年問題協議会

- 委員 西原義文
- 委員 外園三千男

えびの市畑地かんがい事業推進協議会

- 委員 高牟禮宏邦
- 委員 藏園晴美

えびの市戦没者追悼奉賛会

- 委員 藏園晴美
- 委員 本石長永

市議会だより編集委員会

- 委員長 池田孝一
- 副委員長 松窪ミツエ

- 委員 本石長永
- 委員 北園一正
- 委員 竹中雪宏
- 委員 上原康雄
- 委員 西原政文

ご家族や地域の絆が深まる幸せな一年を祈って

えびの市議会 議長 藏園 晴美



新年あけましておめでとうござ
います。

皆さまにおかれましては、ご
家族お揃いで健やかな新年をお
迎えることとお喜び申し上げます。

私、昨年10月の臨時議会にお
いて、第28代えびの市議会議長
に就任させていただきました。

昨年は、1月の鳥インフルエ
ンザに始まり、新燃岳が52年
ぶりの噴火、3月には東日本大
震災による想像もつかない被
害、そして10月にはえびの市職
員による競売入札妨害事件が発
覚、贈収賄事件に発展しました。
市民の皆さまには驚きとご心配、

お怒りの一年にしてしまいまし
た。

この事件は、市執行部側の行
為によるものではありませんが、
議会が一層のチェック機能を働
かせておれば、事件は阻止でき
たのではないかと深く責任を感
じている次第です。今後は、さ
らなる入札改革など再発防止に
向けて執行部、議会ともども大
きな課題として、これに取り組
んでまいります。

さて、年末恒例のこの一年の
漢字に「絆」が選ばれました。

忙しい現代社会においては、家
族の絆、地域の絆がつい忘れが
ちになります。しかし、その一
方で、あちこちで地域の活性化
に向けた活動により、連帯感が
強まっていることも証明されて
います。

今年の干支は辰、昇り竜のご
とく私たち一人ひとりが絆を合
言葉に、焦らずしっかりとした

足取りで、安心、安全で活力あ
るまちづくりの階段を上り、幸
せな一年が過ごせるようにした
いものです。

終わりに、未来に向けた夢を
昇り竜に託し、今年一年が皆さ
まにとって幸せな年であります
ようにお祈り申し上げます、市議会
を代表しての新年のご挨拶とい
たします。



編集後記

新燃岳噴火災害で始まり東日
本大災害と福島原発事故からの
復旧・復興の道半ばで年が暮れ、
新しい年を迎えた。

極寒の続く被災地の人々にと
つての新年が大きな希望の年にな
ることを願おう。えびの市は幸
いなことに大きな災害は起きな
かったが、自然の脅威や恐怖の念
は心の備えとしよう。昨年の議会
は物産館問題が大きな議論とな
った。実質的な運営主体は固まら
うとしている。今年はいよいよ
建物の建設工事が始まる。活発な
人・物・情報の交流拠点を実現す
るには引き続き知恵と議論が不
可欠だ。東北
人の根気強さ
を見習い、幸
せと希望を追
求していこう。

編集委員長

池田 孝一

